

令和元年度第5回美濃加茂市地域公共交通活性化協議会議事録

日 時：令和元年12月12日（木） 14時30分 ～ 16時10分

場 所：第一議会委員会室

出席委員：14名

<進行>

○開 会：14時30分

○会長挨拶：14時33分～14時35分

○協議開始：14時35分

○議第1号説明：14時36分～14時44分

●（森）事務局の方から説明がございました古井駅－可児川駅線ですが、こちらは地域間幹線系統の国庫補助を受けておまして、県協議会の方で自己評価を行い、中部運輸局から改めて、二次評価を受ける段取りとなっております。美濃加茂市の自主運行バス古井駅－可児川駅線につきましても、幹線補助を受けておりますので、対象となります。自己評価については、今後県で案を作成し、後日確認をお願いすることとなっております。本日は評価の方針についてのみ説明させていただきます。古井駅－可児川駅線は平成29年10月より運行を開始し、30年度の輸送量が4.7、令和元年度の輸送量が8.4と2年連続幹線系統の要件であります、15人を下回っている状況でございます。そのため、令和2年度、今年の10月からの運行分につきましては、国庫補助の対象外となります。今後将来的に輸送量が15人を上回ることがあれば、再び国庫補助の対象となる可能性もありますが、その場合は2年間連続して輸送量15人を上回る必要がございます。美濃加茂市としても今後、経路検索のサービスやキャッシュレスなどの様々な取り組みをされてますが、利用促進策にも積極的な事をしていただければと考えております。

○議第1号協議：14時44分～14時50分 全会一致で協議が調う

【協議詳細】

●（岐阜運輸支局 伊藤）今回、自己評価ということで、これら3路線についてお出しただく事になるんですが、⑤の目標効果・達成状況を見ますと、目標値と実績値について大きく乖離しているような状況、良い方への乖離ということではあると思うんですが、まず現在の目標値を立てた時にはそれぞれ、2900とか4200っていうのは、それなりの理屈があったかと思うんですが、今般これだけ大きく乖離した理由というのは分析されているのでしょうか。

⇒（市）当初のあい愛バスが、便数も少ないなか利用者もどんどん減少していくなかでの推測であったため、統計資料も含めて、利便性向上により、そこまで利用者が増えるというこ

とが予測できなかったことが大きな要因ではないかと事務局としては考えております。

⇒(岐阜運輸支局 伊藤) 今回の再編が29年10月からということで、これで2年、再編後の運行をされてまた、次期の計画をつくられると思うんですけど、そのあたりの理由なども十分分析いただいて、次期作るときにはある程度達成できるような目標値としていただくようご検討の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。

●(座長 松本) ちょうど今、網形成の見直しをしていただひているので、そこでの目標値としては、現実を踏まえるような形でということですかね。再編前は、使い勝手の悪いバスだった状況で、利用者数もすごく低迷していた状況で、それに対して、2年前の10月に再編して、凄く便利になり、利用者増は見込めたんですが、控えめにしていたところだと思ひます。とは言え、このように実績も出てきていますので、これに見合った目標を今度の網形成ではしていく事になると思ひます。

評価はAではありますが、幹線系統の方については、補助基準を満たさず、補助落ちという実際は厳しい状況ですので、決してこれで満足することなく、また補助の対象となるように、すなわち輸送量15人を上回るようにまた一層の努力をお願ひしたいと思ひます。

○議第2号説明：14時50分～15時17分

○議第2号協議：15時17分～15時47分 全会一致で協議が調う

【協議詳細】

●(岐阜運輸支局 伊藤) 一つ確認なんですけど、今回アンケートをとられて達成状況等を把握されてると思うんですが、このアンケートはどういったやり方をされているのでしょうか。利用者、利用されていない方、それとも年代別に網羅されているのか。どういった手法でアンケートをとられたのか確認したいのですが。

⇒(市) アンケートにつきましては、市民アンケートとバス利用者アンケートの2種類をやっておりまして、市民アンケートにつきましては、市内3千人を無作為に抽出しまして、その中で地域と年代も考慮した抽出を行っております。バス利用者アンケートにつきましてはOD調査の際に調査員により一人一人にお渡しして、ご意見を伺っているところでございます。

●(可知) 八百津線に関しましては、当社も課題としておりまして、支援学校の生徒さんが大半で、実際に八百津高校の生徒さんが乗って見えるのは、数人ということになっております。OD調査のなかで、本数は平日6本走っているわけなんですけど、10人、6人、1人、8人、2人、0人という状態になっております。この人数を見て愕然としている部分もありますが、八百津線の存在意義というのは当社の中でも課題となっていますので、今後、八百津町も含めてこれから協議していきたいと思っております。

⇒(座長 松本) 現状は支援学校の生徒がよく使われているとの事ですが、場合によっては

観光資源といったところに着目すると違った利用も見込める可能性はあると思いますし、こういった情報社会で検索さえできれば利用につながっていく事もございますので、そういったことも含めて検討していただければと思います。

●（澤田）最後に何がネックになるかという、どれだけ予算をつけるかということ。素晴らしい事をやろうと思えばできるんですけども、どこで折り合いをつけるか、その問題だけです。市役所と協議しながら我慢するところは我慢して、きちっとしたものをつくっていきたいとは思っております。

●（座長 松本）収支率について課題に含まれていないが、事務局としては、収支率が低いのが特に課題にするまでもないという状況でよろしいですか。

⇒（市）できる限り多くの方にご利用いただくという意味で、料金を安く設定というところに主旨を置いているので、本来は収支率というところも考えていかなければいけないと思いますが、なるべくたくさんの方に気軽にご利用いただくという観点で料金設定しているところでございます。

（藤井）一点ですね、市民による各種活動の実施、これが未実施になっておりますが、この辺については、もう一度原点に戻ってこういった活動を掘り起こす必要があると思います。

⇒（市）行政が関わりながら地域主体となってというところが進めていけるところだと思います。そのなかで地域にまちづくり協議会という団体もありますので、そういったところにも働きかけをしながら進めていければと思います。実際に計画に位置付けられれば良いと思います。

⇒（藤井）わたしども健寿会ですので、健寿会との連携、こういうところで働きかけが今のところなされていないので、こういうところをお願いしたい。

（坂井）都市との高速のジョイントの件ですが、私ども商工会議所の中でもですね、ぜひとも駅とのジョイントしていただきたいと、早期実現願いたいと、要望書も出しておりますので、ぜひ、それを実現していただければと思います。

（朝日）便を増やすというのは大変かもしれませんが、家族などに話を聞くと昼の時間帯が、例えば少なくとも1時くらいに出る便があればいいかと、12時半くらいがいいですけども。それが今だと2時台にでて、三和の方へ着くのは3時くらい、そうすると買い物に行くにはあるんですけど、帰ってこれないから、どうしても車を使ってしまうという意見が地元ではある。使いたいんだけども昼、12時半から1時くらいの1つあるといいなという意見を耳にします。

⇒（松本）10ページの下から2段落目ですが、利用者を含む市民からは、美濃太田駅と郊

外地を連絡する路線では、昼間時間帯の運行を望む要望があがっている。まさにこのとおりでと思います。この辺は結構難しくですね、ドライバーの休憩時間をとらないといけないので、どうしても連続の運行ができないということもありまして、簡単にはいかないなと思っておりますが、シフトをずらしてもらおうとか、昼食時間を路線によってずらしてもらおうとか、何か工夫もあるかもしれませんので、利用者の方の声に応えられる検討もぜひ、していただければと思います。

⇒（澤田）1日を通しでは働けないので、昼で代わって6時間、7時間の勤務になってしまった場合に、6時間という勤務で毎日勤務して本人が期待するような給料が払えるかといった問題になってくる。さっきも申し上げたように最後はお金と色々なことの間で折り合いをどうつけるか。

⇒（松本）簡単には、運転手を2人使えばということだけど、昼間休まずにできるが、その分人件費はかかってしまうという事。問題は共有しながら可能な方策があれば、ぜひ模索していただければと思います。

（市長）様々な意見ありがとうございます。またいろんなアドバイスをありがとうございます。今美濃加茂市として、あい愛バスに対する思いとか、政策上の事を少し話させていたいただきたいと思います。あい愛バスは移動手段、目的地に早く安全にという事は第一に。それプラスですね、来年度からの新総合計画のキーワードに健康を掲げている。健康を様々な事業でなぜやるかという、基本的には市の国保事業費の負担額を下げたい。これは行政として非常に大きな課題で、毎年何億という負担金が発生して、ますますこれが大きくなってくると、自治体経営の中で非常に大きな負担となってくることが予想されます。そういったものを少しでも下げていただくためには、やはり健康寿命を長くしたい。それから新総合計画の大きな目標にも挙げておりますけども、そのために外に行っていただく方、友達と一緒に外へ遊びに行ってみようという意欲のある方、そういう方をどんどん多くしたいと思っております。そのためにあい愛バスが非常に有効な手段になると思っております。まず外へ行きたい場所があるということですね。それから友達と一緒にあい愛バスで出かけようという意欲。こういった地域の絆にもつながるということで、健康増進の中でもあい愛バスの事業というのは非常に大きな要素。これを先行投資させていただいて、少し年数はかかるかもしれませんが、最終的に美濃加茂市の健康寿命は延び、そして医療費削減につながると、こういう政策というのを持っておりますので、湯水のように使うわけにはいきませんが、先行投資としての事業だということで私どもは市民の方にご理解いただけるように努力してまいりますので、ご支援よろしく申し上げます。

⇒（松本）そういう意味では12ページに少し書いてありますね。「健康寿命の延伸」とは書かれておりますが、これは観光レクリエーションと連携した公共交通というその一環で書かれていますが、もう少し大きく書いていただいて、「公共交通の利活用による健康寿命の延伸」といったようなものでもいいかもしれません。前計画から今計画で大きく違うのは

前計画はとにかく路線、サービスを提供する。ネットワークを作っただけでいいとはいけないところ、今はそれなりにネットワークもできてきてまして、1時間に1本ではありますが、他の自治体と比べても十分なサービス水準だと思いますし、使い方によっては十分使えるところまでできているんですが、それがまだまだ使いきられていないなという感じを受けます。場合によっては、そのPRもまだまだ不十分だと思っていて、次の網形成計画は使っていただくという視点をもっともっと強めてもいいんじゃないかなという気はしております。そういう意味では市長が言われたような、健康につながっていくんだよというPRも一つです。あるいは買い物、通院にもこんなふうに使えらるんだよとか、それと市民の方々とともに育む、そっちに力を入れながらもっともっと使い倒してもらおうようなそんなのがでてくるといいかなとは思っています。

(支局 伊藤) 資料の2ページで「わかりやすい情報提供」の事業がありまして、わかりやすい公共交通案内のシステムで「モークル」というものと、それからGTF S化に取り組中という記載があるんですが、このGTF S化の実現の目途は立っているんでしょうか。より利用を促進するということでも結構重要になってくると思うのですが。

⇒ (市) GTF S化につきましては、つい昨日実現したところで、グーグルマップやナビタイムなどで検索できるようになっております。他にも申請はしておりますので、相手側の対応を待っている状況です。

(澤田) それは多言語対応になっているのでしょうか。

⇒ (市) バス停名などの情報については、ローマ字の情報も入れておりますので、英語圏の方については、カバーできていると思う。

⇒ (澤田) 例えば、リバーポートパークをそれぞれの国の言語で入力すれば使えるということか。

⇒ (松本) 英語もしくは、ローマ字のみの対応になる。

(市長) リバーポートパークの名前が出てきたので宣伝ですけども、12月20日に「かわまちづくり」という事業で全国で200ヶ所ほどあるんですが、令和元年度のかわまち大賞に新潟市さんとうちと2つ選ばれてまして、国土交通大臣から表彰を受けておりますので、ぜひ写真をとってPRしていただければと思います。SNSでのPRやインバウンドについても今後勉強していきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

○議第3号説明：15時47分～15時50分

○議第3号協議：15時50分～15時51分 全会一致で協議が調う

○報告事項：15時51分～16時07分

【報告事項1】

●（松本）こちらは、小学校への案内はされたのでしょうか。

⇒（市）小中学校へは全校生徒に対しまして夏休み前に配布させていただきました。別途、各施設にも案内をしまして、SNS等でも周知を図っております。

⇒（松本）その結果95人というのは、事務局としてどうでしょうか。

⇒（市）もう少し参加してほしいというのはあったが、親子で参加していただくようにコースを設定していたため、子どもだけで参加することが難しかった可能性はあると思われる。

【報告事項2】

●（松本）すごい事だと思いますが、利用状況はどうでしょうか。

⇒（市）LINE Payを5月21日から導入しておりますけども、6ヵ月間で74件のご利用があります。長良川鉄道でもPay Payを導入しておりますので、長良川鉄道とバスが連携できるように導入するといった経緯もございます。

⇒（松本）いいですね。両方使える企画切符をPay Payで購入し、行った先でもPay Payが使えれば素晴らしいですね。

●（澤田）Pay Pay以外に銀行系の決済のJ-Coin Pay、NTTドコモのクラウドペイを順次やっていく、銀行系だとお金の出し入れやガードに優れている点がある。今後も使えるものを増やしていく。

【報告事項3】

●（支局 伊藤）個人的な意見ですが、先ほど10万人を達成する見込みとの話をいただいたので、セレモニーをやってこんなに使っている人がいるというのをPRしてもよいのではないかと。

⇒（松本）ぜひやっていただきたい。10万人目を特定することは難しいと思うので、前後何人かに記念品を渡すようなことをしていただければと思う。

【その他】

●（鷺見）皆様ご存知の事かもしれませんが、バス事業について報告させていただきたいと思っております。現在全国的に少子高齢化、人口減少が言われておりますけども、我々バス事業においても非常に厳しい要因不足で平均年齢が上昇しております、ただ単に要員が足りないという状態ではなくて、かなり深刻化をしております、営業所によっては、多少差はあるものの、平均で全体の仕事の中の7割、8割ほどしか埋まらない状態です。残りの2割から3割は休日のものが出勤したり、コースを分割することで、時間外の者が対応しております。それにより朝早い時間から夜遅い時間までですねかなりの厳しい労働をしているような状況です。しかし、最近では高齢者による自動車事故が多発をしておる中、まだまだ移動手段の不安は払拭できないなか、とりわけ今後は公共交通の役割が極めて重

要になると感じております。そして利用者の安全と利便性の向上を基本とした交通施策に取り組んでですね、一方で職場環境、走行環境の改善も始めて、要員の確保、いわゆるなり手を増やしていく事と、魅力あるバス産業を目指しながら地域の暮らしを守ってですね、産業をはじめとして取り組んでまいりたいと思います。今後もぜひ皆様には、たくさんご利用いただいて皆様とともに守り育てていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

⇒（松本）本当にバスやタクシーの運転手不足は深刻なものだとお伺いしております。待遇改善等々は事業者ごとに行っていただく必要はございますが、我々としてはやっぱりバスのドライバーが魅力のある仕事だと、いわゆるやりがいのある仕事だという環境をつくっていく、それは今言われたようにまさに皆さんがバスを使っていくことですね。それを一丸となって取り組みながら、そして持続可能な公共交通を作り上げていく事が必要だとは本当に思っております。

○部長挨拶：16時07分～16時10分

○閉会：16時10分